

日朝国交促進と自主・平和をめざす 全国セミナー

2月11日、徳島市の徳島グランドホテル偕楽園において、日朝国交促進と自主・平和をめざす全国セミナーが、チュチェ思想研究会全国連絡会と全国セミナー徳島県実行委員会の主催により開催された。

全国セミナーには、全国各地から学者、政治家、文化人、労働組合活動家、青年学生、女性など230余名が参加した。

また、来日中の朝鮮社会学者協会のキムヨンイル副委員長を団長とする朝鮮社会学者代表团、在日本朝鮮人総連合会中央常任委員会のナムスンウ副議長が招待された。

全国セミナーは、自治労徳島県本部書記長である全国セミナー徳島県実行委員会の川越敏良事務局長の司会によって開会した。

朝鮮社会学者代表团が入場し、団員が紹介された。

全国セミナーでは、はじめに全国セミナー徳島県実行委員会委員長である朝鮮の自主的平和統一を支持する徳島県民の会の篠原晴美会長が、主催者あいさつをおこない、つぎのように述べた。

南北首脳会談が開催され、自主の潮流がまきおこっている21世紀の冒頭に、徳島の地で全国セミナーを開催できたことを誇りに思う。徳島ではじめて開催される全国セミナーのために、県内の日朝友好団体、労働組合、学者、経済人など各界各層の広範な人々が実行委員会を担い、短期間に準備をすすめた。

朝鮮社会学者代表团から全国セミナー実行委員会への記念品と、徳島県実行委員会からキムジョンイル総書記への贈物の交換がおこなわれた。

つづいて、朝鮮社会学者代表団のキムヨンイル団長があいさつをおこなった。

元首相である日朝国交促進国民協会の村山富市会長、徳島市長の小池正勝氏、参議院議員の清水澄子氏と高橋紀世子氏、衆議院議員の仙谷由人氏、山口俊一氏、遠藤和良氏、七条明氏からの祝賀メッセージが紹介された。

沖縄大学教授であるチュチェ思想研究会全国連絡会の佐久川政一会長が、全国セミナーの基調報告をおこなった。佐久川会長は、(1)自主・平和は時代の潮流、(2)自主の道を進む朝鮮民主主義人民共和国、(3)チュチェ思想は自主・平和のための指針、(4)日朝国交正常化は切迫した課題の4つの体系で報告し、つぎのように述べた。

今日、世界では急激にグローバル化が進み、世界的範囲で貧富の格差が拡大している。しかし、自国の力を信じ、自国の民衆に依拠して難関をきりひらいていくことにより、自国の自主性を堅持し繁栄する社会を実現することができる。帝国主義の包囲の中でも困難を乗り越え、自主のたたかひの先



頭にたっているのはキムジョンイル総書記である。民衆が自主性の時代の新しい指導思想であるチュチェ思想を手にするとき、自主の道を前進していくことができる。地理的に隣接し歴史的にも深い関係にある日本において、日朝国交正常化を実現することは、アジアと世界の平和にも貢献する道である。さらに幅広い階層を結集して、日朝国交の早期実現と日朝友好の気運を盛り上げ、一大国民運動にしていくことが求められている。

つぎに、元国連事務次長である日朝国交促進国民協会の明石康副会長が「国際社会と共和国、そして日本の役割」と題して講演をおこない、つぎのように述べた。

昨年6月の南北首脳会談は世界に大きな影響を与えた。アメリカ主導ではなく、南北の朝鮮が小異を捨てて大同に立ち、民族の共通性から自主的な統一の実現をめざすものであり、意義が大きいものである。日本が朝鮮との関係を発展させるためには、過去の植民地支配や戦争の責任にたいする清算をおこなうことが不可欠である。そのうえでは、現代史についての正しい認識を国民がもつ必要がある。朝鮮人民の自らの力にもとづいて困難を乗り越えていこうとしている気持ちを尊重して友好関係をきずいて、21世紀には日朝の非正常な関係を転換していかなければならない。



その後、四国チュチェ思想研究連絡会の名田隆司事務局長が「書を持ち街へ出よう」と題して研究報告を、徳島文理大学総合政策学部の大和田建太郎教授が「グローカリゼーション時代の国際交流とメディア 朝鮮民主主義人民共和国へ発電機を贈る県民運動の背景を考える」と題して訪朝報告を、姫路朝鮮問題研究会の松尾司会長が「姫路朝鮮問題研究会の25年の歩みから」と題して活動報告を、それぞれおこなった。

全国セミナーのまとめを、東日本国際大学学長であるキムジョンイル著作研究会全国連絡協議会の鎌倉孝夫代表世話人がおこなった。

最後に、チュチェ思想研究会全国連絡会の花輪不二男事務局長が閉会あいさつをおこない、全国セミナーは成功裏に閉会した。

全国セミナー終了後、キムジョンイル総書記誕生59周年祝賀パーティーがおこなわれた。

祝賀パーティーは、サクソフォン奏者の新田恭子氏の「われらの願いは統一」「赤とんぼ」などの演奏により、はじまった。

神戸市外国語大学教授であるキムジョンイル著作研究会全国連絡協議会の家正治代表世話人が乾杯の音頭をとり、日本キムイルソン主義研究会の海老沢靖彦会長、日朝音楽芸術交流会の小笠原美都子会長など各界人士が祝賀のあいさつをおこなった。

祝賀パーティーでは、アトラクションとして、



阿波藍連による阿波踊りがおこなわれ、会場中が踊りの輪になった。参加者は和やかな雰囲気の中で交流を深めた。

祝賀パーティーでは最後に、徳島県実行委員である経済人の美馬商事の美馬準一会長が閉会の挨拶をおこない、パーティーは終了した。